89. アトリウムの透明感を演出する照明手法

－大手町野村ビルのアトリウム照明－

宮崎秀一 武田良一 山本出
(大成建設株式会社)

藤原工
(松下電工株式会社)

1. はじめに (施設の概要)

大手町野村ビルは旧丸ノ内野村ビルの外観イメージを残しつつ建築されたオフィスビルで、本体部分であるオフィス棟は 1994 年 2 月に 1 期工事として竣工している。

本報告で述べるアトリウムは、そのオフィス棟へのエントランスホールとして 1997 年 1 月に竣工し、その透明感のある外観は重厚なオフィス棟と相まって、個性的なファサードを創りだしている。

2. 計画概要 (アトリウムの照明)

21M×26M、高さ 27M のアトリウムは基壇部を除く全面を透明フロートガラスで囲まれ透明感が高く、ガラスの支持手法もアルミカーテンウォールと支持構造体を分離させた 2 重構造を採用しフレームの影を感じないように考慮されている。

今回の照明計画では、この透明感をどう活かすかを焦点に絞りディスカッションを重ね、照明手法の検討をおこなった。

以下に本照明計画においてのポイントとなった事項を挙げる

①外部からの視点の考慮

- ・透明感を演出する照明手法・・・カーテンウォールの支持構造体をライトアップする。特に、フレームの外側の鉛直面を照らしフレームの影をださない。

②内部での視点の考慮

- ・効果的なベースの照明手法・・・通過空間に全般照明で高照度では非効率である。最小限のベース光とリズム感のあるスポット光を上部サイドから得る。
- ・明るさ感を演出する照明手法・・・構造体のライトアップは外部からだけでなく内部の視点も考慮し、内側の鉛直面も照らして影をつくりださない。

＜照明計画＞

(フレームのライトアップ)

- A. 150W高演色形高輝度放電灯スポットライト 色温度3000K、中角配光
- B. 12V-100W小型ハロゲン電球スポットライト 狭角配光

(基本照明)

- C. 150W高演色形高輝度放電灯スポットライト 色温度3000K、中角配光
- D. 12V-100W小型ハロゲン電球スポットライト 超狭角配光

3. 照明設計 (実施設計及び検証)

照明器具配置、器具仕様を決定するにあたり、CGにて検証作業をおこなった。CGでは、照明とともにフレーム意匠なども検討された。

以下にCGにて検証した事項をいくつか挙げる

- ①外観の検証＝オフィス棟外観とのマッチング、光り漏れの影響、フレームの影・・・等
- ②内観の検証＝アトリウム全体の雰囲気、床面の光のパターンと影（構造体、床面に生じる）・・・等

4. おわりに

本計画でのCGによる検証作業は、イメージ検証だけでなく輝度、照度、影の検証など多岐にわたっておこなわれ、その結果は照明だけでなく建築設計の調整にも利用された。このような双方向の検証作業により、照明設備と建築意匠が一体となったアトリウム空間を創出することが可能となった。

Lighting effect, it attract Atrium's transparently at Otemachinomura-Building.

Shuuichi MIYAZAKI, Ryouichi TAKEDA, Izuru YAMAMOTO, Takumi FUJIWARA